

# 語りの時間の登壇者紹介

## プロフィール

■ 氏名 高橋 敬子(タカハシケイコ)

■ 所属 立教大学ESD研究所

■ 主な経歴

H18年にNPO風土-Kazetsuchiを設立。H26年にとしまちプロジェクト運営協議会を設立。豊島区西池袋を中心とし、大学、町会、学生らと連携を図りながら持続可能な地域づくりに向けた活動の企画・運営を行う。また、国立環境研究所において気候変動教育の研究も実施している。

■ 問合せ先 立教大学ESD研究所 高橋敬子 [keiko.takahashi@rikkyo.ac.jp](mailto:keiko.takahashi@rikkyo.ac.jp)

NPO風土-Kazetsuchi- [kazetsuchi@yahoo.co.jp](mailto:kazetsuchi@yahoo.co.jp)

『環境カウンセラー』  
(環境省登録)  
としての顔も。

## これまでの活動

### ■ 池袋西口での屋上緑化プロジェクト支援

活動日 2016/11/12

分野 生態系・生物多様性

対象 大人

属性 企業・団体

依頼元 企業・団体

活動区分 企画・活動



池袋西口の屋上緑化プロジェクトを実現するために、地域の住民の方や団体の方たちに在来種・外来種の違いや、在来種を植えることの重要性を知ってもらうため、自然保護団体の方を講師に呼んで、勉強会を開催しました。

また、勉強会の後に、屋上緑化をする場所に行き、既に生えている外来の植物、メリケンカルガヤ、セイタカアワダチソウを特定してもらい、参加者12名で草ぬきを行いました。今後は、春に東京都産の在来種の種を植える予定です。



# 登壇者のこれまでの活動紹介

## ■ こどもエコクラブの活動支援

活動日	2016/05/21
分野	自然への愛着
対象	子ども
属性	小学校
依頼元	その他
活動区分	企画・活動

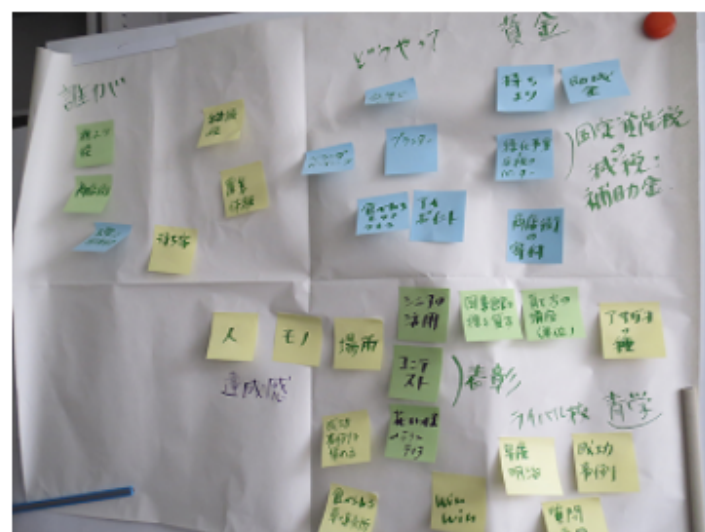


小学生の子どもたちに、自然の素晴らしさを知ってもらうために、こどもエコクラブサポーターとして、さまざまな自然体験の活動を企画しました。

身近な自然をじっくり観察してもらうために、ダンゴムシの観察をしたり、海辺で拾った貝殻を使ってアクセサリーづくりをしたり、サツマイモの植え付けと収穫をしたりと、自然に興味を持ち、親しみ、活用することを1年間かけて体験してもらいました。

## ■ 池袋西口緑化プロジェクトのコーディネイト

活動日	2016/03/04
分野	生態系・生物多様性
対象	大人
属性	企業・団体
依頼元	企業・団体
活動区分	ファシリテート・コーディネイト



池袋駅の西口周辺を緑いっぱいになりたいという地元の方の意見を実現するために、2016年の3月から月に1回程度の会合を開催し、地元町会の方、地元NPO、企業、大学等の方たちが集まり、どのようにしたら実現できるのかについて話し合いました。

私はその中で、コーディネイト役として関わりました。

会議では、賛成する方、反対する方等さまざまな意見の対立等はありませんでしたが、「誰が」「何を」「どうやって」進めていくのかについて、継続的に話し合いを進め、最終的には屋上緑化を行うことで意見の調整ができました。



# 登壇者のこれまでの活動紹介

## ■ 徹底討論、温暖化で生態系はどうなる？ ? 私たちにできることは？

活動日	2015/04/18
分野	地球温暖化
対象	大人
属性	企業・団体
依頼元	企業・団体
活動区分	講演・講師



国立環境研究所で実施した春の環境講座「徹底討論、温暖化で生態系はどうなる？ ? 私たちにできることは？」にパネリストとして参加しました。

私は企画段階から関わらせてもらい、市民の方たちが理解しやすい発表やクイズの流れ、メッセージボードを使ったメッセージの発信の工夫等についてアドバイスも行いました。また、パネリストとしては、来場者の方たちも同様に考えているであろう疑問点について、市民の立場として質問を投げかけました。結果として、来場者の方たちが発言・質問しやすい雰囲気づくりができていたように思います。

## ■ ドイツ・オーストリアにおける気候変動教育とESDに関する授業

活動日	2015/11/25
分野	地球温暖化
対象	大人
属性	高校以上
依頼元	高校以上
活動区分	講演・講師



立教大学大学院の授業にゲストスピーカーとして呼んでいただき、ドイツ・オーストリアにおいて、気候変動教育やESD(持続可能な開発のための教育)に従事するNGO、教育関係者等にインタビュー調査を行った結果をまとめ、各国の教育傾向について話題提供を行いました。



# 登壇者のこれまでの活動紹介

## ■「風土(かぜつち)かふえpart5—西池袋発」—風の人・土の人との交流が育む新たなコミュニティ

活動日	2015/02/21
分野	消費生活・衣食住
対象	大人
属性	企業・団体
依頼元	企業・団体
活動区分	ファシリテート・コーディネート



豊島区西池袋を拠点として活動するNPO、大学、企業、自治体、町会等10団体が集まり、2014年3月に「としまちプロジェクト運営協議会」が発足、私は各団体をつなぐコーディネイト役として関わっています。

協議会では、「持続可能な西池袋」を目指して活動するために、[1]西池袋の強み・弱み、[2]西池袋をどんなまちにしたいのか？どんなまちなら住んでみたいのか？等について、ワールドカフェ等の方法を用いて話し合いを重ねてきました。そして、西池袋のまちはどんなまちなのか、どんなまちにしたいのかについて全員で共有した後、「持続可能な西池袋」について私たち自身がどのように考えるのか、具体的なまちの像について意見を出し合いました。

私たちが目指す持続可能な西池袋は、(1)人と自然をつなぐ(2)人と人をつなぐ(3)今の宝を未来の人につなぐ(4)まちと人がつながる まち であることを共有しました。そして、このようなまちを目指すために、どのような活動をしていけばよいのか話し合いました。

「まちのコンシェルジュを置こう」「埼玉等の近隣県から人を呼ぼう」「西池袋の田舎化」をしよう等の意見が出ました。これらの具体的な意見の中の一つとして、コミュニティカフェを開催する案が出ました。コミュニティカフェは、私が主宰しているNPOで、地元町会、大学と協働で実施してきたのですが、私たちの活動をさらに多くの人に知ってもらい、また持続可能な西池袋について、住民の方たちにも一緒に考えてもらう機会を設けようということで、コミュニティカフェ「風土かふえ」の中でシンポジウムを開催しました。

シンポジウムでは、豊島区及び西池袋を拠点として生活・活動する様々な立場の方々に、各視点からの活動報告や西池袋の現状、目指すべき将来像について話をしてもらいました。

パネルディスカッションでは、パネリストと来場者との双方向の話し合いができ、持続可能な西池袋の実現に向けた活動の道筋について、多くの市民の方たちとともに考えることができました。

シンポジウムに参加した方からは、「現状の課題に対するリアクションが、長期にみた町づくりのビジョンにどのような効果があるのかを常に考える必要があると改めて思いました。」「池袋には、遊びにきたり、色々用事のために来ているので、非常に興味深かった。」「池袋のこれからの再開発に期待しています。住んではいるけれど、知らないことばかりだと感じました。」等の感想を頂きました。また、「かふえ」については、「飲み物や雰囲気などが楽しかった。」「手作りで挑んでいるのがおもしろい」等の感想も頂きました。

今後も定期的に「かふえ」を実施し、地域の人、地域外の人たちが気軽に立ち寄りやすい雰囲気づくりを行っていきたいと考えています。



# 登壇者のこれまでの活動紹介

## ■ としまちプロジェクト〈まちあるき編〉

活動日	2013/08/31
分野	自然への愛着
対象	大人
属性	自治体
依頼元	自治体
活動区分	ファシリテート・コーディネート



私は、NPO風土-Kazetsuchi-に環境カウンセラーとして参画し、様々なイベント等の企画運営をしています。

この度、東京都豊島区西池袋南町会と協働で、地元の人(土の人)と外から来た人(風の人)とが、地元の人のご案内と一緒にまちを歩くことによって、その魅力を自然、環境、歴史、文化等のさまざまな視点から発見し、「西池おさんぽマップ2」として発信するとしまちプロジェクト(平成25年度東京都地域の底力再生事業助成対象事業)を行いました。

まちあるきでは、外から来た人を大勢巻き込むために、まちあるきイベントを「立教大学編」、「西池袋のまちあるき編2回」の計3回実施、今回は3回目のイベントとなります。

まちあるき参加者からは、「せっかくだから新しい住民を次回まちあるきに誘いたい!!!」や、「西池袋のまちを歩いて、街並のきれいなのにびっくり。大変気持ちの良い散歩でした」等の感想を頂き、またその後のマップ作りの話し合いにも積極的に参加してもらおう機会を設けることができました。

地元の方からは、外から来た人と一緒に話をすることで、地元の人だけでは気づかない点を客観的に言ってもらえた点良かったという意見を頂きました。また、地元の方たちが、まちのことについて改めて調べ、じっくりと向き合うことによって、まちの良い点や悪い点、まちの課題等について再発見することができました。環境カウンセラーとして、地域の環境保全活動の第一歩として、自分たちの住むまちについて興味を持ってもらうことができたので、今後は地元の人たちと一緒に、持続可能なまちづくりのために必要な視点や、地域の環境について、より詳しく学べる講座等をまちの人たちと一緒に企画したいと考えています。

なお、本プロジェクトは、5月にキックオフ会合を開催し、「手に取りたいマップとは?」という題名で、さまざまな参加者のマップに対する思いをワールドカフェ形式で共有し、7月6日、8月31日には、立教大学、西池袋1丁目～5丁目までを大学の職員の方、地元町会の方のご案内で歩き、その魅力を地域資源カードにまとめています。

また、「まちあるき」の際の歩くルートや話す内容についても、まちの人と一緒に、外の人たちが興味を持ってくれるためにはどうすればよいか、という視点で話し合って決定しました。また、さまざまな環境の視点(自然環境や景観、ゴミ、防災等)についても話をしてもらおうようにしました。



# 登壇者のこれまでの活動紹介

## ■ 自然素材を使ったアート作品づくり

活動日	2013/02/02
分野	自然への愛着
対象	子ども
属性	小学校
依頼元	企業・団体
活動区分	ファシリテート・コーディネート



2013年2月に、新宿区立戸山小学校で開催された「新宿の環境学習応援団」第12回まちの先生見本市に出展して、自然素材を使った工作「落ち葉で写し絵」、「どんぐり動物園」などを行いました。このイベントは、新宿で活動している大人「まちの先生」が、環境教育の体験型ワークショップやプログラム・技術展示、相談コーナー等を開設し、教育現場の「学校の先生」へ紹介したり、近隣の子どもたちに環境問題について体験を通して考えるきっかけを提供することを目的に、毎年実施されているものです。

出展にあたっては、落ち葉や木の実などの自然素材や、使用後のカレンダーや段ボールを利用することによって、参加者に自然へ興味を持ってもらうと同時に身近にあるものに目を向けてもらい、大切にしてもらいたいという想いも込めました。

「落ち葉で写し絵」は、押し葉を紙の下に置いて、色鉛筆でなぞって葉っぱの形を写し取り、浮き出てきた葉っぱを切り取って紙の上に貼り付け、自分の好きな絵をつくります。額縁もダンボールを活用しました。葉っぱを自由に組み合わせて「カニ」や「ネズミ」を作った子どもや「本当に自分で葉っぱを描いたみたいにかいりに描けた!」と得意気にお母さんに話をする子どもたちの姿が印象的でした。

「どんぐり動物園」では、どんぐりや木の実を使って様々な動物を作りました。小さな枝で檻を作ったり、ハサミでどんぐりに傷をつけてハリネズミを作ったりなど、子どもたちの独創性のある動物園ができあがりました。また、工作をしながら、「このどんぐりって何の実なのかな?」と言ってどんぐりの種類に興味を持つ親子もいました。

このイベントを通して、身近にある自然素材や材料だけで、いろいろな遊びができること、葉っぱやどんぐりも様々な種類があることを知ってもらうことができました。また、活動の中で友だちや親子での会話も広がり、自然についての興味を誘うことができたように思います。

